

令和7年2月6日

松阪市議会議長 中島 清晴 様

松阪市議会 広報広聴委員会
委員長 沖 和哉

令和7年 1 月23日(木)から 1 月24日(金)の2日間、先進地行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

松阪市議会広報広聴委員会 行政視察報告書



日 時 令和6年 1 月23日～24日(2日間)

派遣先 宮崎県宮崎市議会「議会 DX みやだんについて」
G.com ホールディングス株式会社（福岡県福岡市）
地方行政経営研究所「議会活動の見える化 まちだん」

参加議員 広報広聴委員会 委員 6人

委員長 沖 和 哉	副委員長 松岡 恒雄
森 遥 香	東村 佳子
市 野 幸 男	中 島 清 晴

1月23日 宮崎市議会「議会 DX とみやだん」

1-1 松阪市議会の現状

議会基本条例を制定して早 13年。議会広報誌の改革や議会報告会の実施、ペーパーレスシステムの導入とタブレットの配備など、広報広聴機能の拡大を進めてはいるものの、報告会参加者の減少や下がり続ける投票率など、なかなか成果が出ているとは言い難い状況でもある。住民自治協議会連合会からも市民に分かりやすい議会活動の共有を要望されており、新たな仕組みづくりや市民と議会・政治の距離を縮める取り組みを、模索していく必要があると考える。

1-2 対応者

宮崎市議会 議長 前本 尚登 氏
宮崎市議会事務局 次長 黒木 啓介 氏

1-3 デジタル技術で市民と議会をつなぐ「みやだん」



*宮崎市議会みやだんサイトより

- ◇ 市民と議会の距離を無くす住民参加型のプラットフォーム
- ◇ 完全スマートフォン対応型の議会活動のビジュアル化と発信強化
- ◇ 議員に直接相談できるチャット機能を備えた双方向型ウェブサイト

★ R6 年マニフェスト大賞優秀賞

地方議会の活動がなかなか市民から見えない、分からない。投票率の低下も著しい(平成31年の宮崎市議会議員選挙は過去最低)。いろんな活動をしているのに、市民には伝わっていない。若い世代にも興味を持ってもらえるような、新しい広報広聴機能が必要。

デジタルで情報を集める世代に対応した仕組みづくりにより、活動の見える化を目指す
IT 技術により、市民と議会の距離を縮める＝みやだん

① スマートフォンを主対象としたウェブサイトの構築



- ・議員へのチャット相談
各議員は得意分野や専門分野等を設定し、オンラインで随時相談を受け付けている
- ・一般質問後の 30 秒動画：一般質問動画の視聴増加
- ・議員名簿→プロフィールのイラスト化：ページ閲覧数は約 4 倍に増加
- ・一般質問のイラスト化(LINE のやり取りのように)
従来の市議会だよりの PDF だと、スマホでは文字も小さく読みにくい。
PC ではさほど影響はなくても、スマホ利用者に対応した発信をする必要がある。
- ・議会だよりの感想をアンケート形式でもらう
- ・委員会審査の概要をもとに、議長と委員長の対談動画

② 議会報告会を議会と語る会へ

議会報告会の LIVE 配信(オンラインで質問受付)

これまで仕事や家事等で来れなかった方にも見てもらえる。情報を届けられる。
生の現場だと質問や発言をしにくい、オンラインだと発言しやすく、声を拾いやすい。
これまでは報告 45 分・広聴 45 分だったが、広聴機能強化のため、報告は 10 分の議長挨拶で済まし、広聴部分をメインの形にした。これまでの報告内容は動画に撮ってみやだんにて事前配信。質問も事前に受け付ける

③ 市議会 DX アンバサダー

市民と議会の架け橋になって繋いでくれる役割(大学生等の若い方々が多く参加してくれた)。主に SNS で #議会アンバサダーをつけて投稿。それぞれのフォロワーに発信している。議会との意見交換会へも随時参加。

④ こども議会の開催

中学生 2 校程度、手上げ方式で募集。学校に出向く形で議員がこどもたちと関わる。

1-4 質疑応答

Q 議会 DX「みやだん」の導入の経緯と役割分担は？

A 導入に当たっては、各会派から選出された PT メンバー 10 名で実証実験を行い、おおむね好評で、他の議員も参加の意向を示したため、議会全体で導入した。

みやだんの主担当は広報広聴委員会の中のプロジェクトチーム＋ G.com ホールディングス。議会事務局として資料作成や準備等はあるが、導入前と比較して大きな負担増はない。人員も変わらずに運用できている。業務としては一般質問後の 30 秒動画の撮影が増えたくらい。仮に撮影を議員が行うのであれば、さらに負担は減る。



Q チャット等の登録者は何人か？ 600 人弱 R5 年 430 人 R4 年 258 人

A ページビュー R5 年 月平均 8000 回 R4 年 月平均 5000 回

Q 費用対効果をどう考えるか？

A ランニングコストは年間 300 万円弱(第 1 号ユーザーとしての値引き含む)。チャットによる相談件数や登録者数を指標にせず、ページビュー等の広がり重視している。既存のホームページよりも大幅に市長が増えていることや、議会報告会のライブ中継などでこれまで参加していただけなかった世代や層にアプローチができていると思う。

Q 若い世代へのアプローチができているかどうかの効果検証は？

A みやだんへの登録者の年齢層は比較的まんべんなく登録いただいている状況だが、アンバサダーの活動も含め、若年齢層と関わりが増えてきているのは事実。中学生議会の拡充も含め、さらに広げていきたい。

Q 動画撮影についての担当や分担は

A こども議会や意見交換会は業者対応の撮影・編集。簡易なものは事務局で撮影・編集。議会の作成した動画やアニメーション等を使って、教育委員会での主権者教育に使えないか現在協議中。大学生の選挙啓発サークルなどと交流することもある。備品購入などは、みやだんを契機に、バックボードの作製、ビデオの三脚等程度。

Q チャット機能でのトラブルなどはないか

A 政治的な活用(勉強会や会合への参加の誘いなど)は厳禁にしており、今のところ大きな問題はない。また、誹謗中傷やハラスメントを防止するためにも、事務局で内容のチェックはできるので、何か発生しそうなときは間に入ることもできる。全議員宛の機能やグループ宛等にはできない。個別チャットのみだが、個別に来た案件を任意で会派や委員会等で共有して相談することはできる。

1月24日 福岡市 G.comホールディングス「まちだん」



2 「まちだん」とは？

インターネットを活用し、市民の声を直接議会や議員に届けられるプラットフォーム。初対面では相談しにくい、オンラインでは気持ちや困りごとを伝えやすいという、現代の社会情勢やデジタル環境の時代に対応した仕組み。議会に対して伴奏型で支援することが可能であり、**街の談話＝まちだん＝チャット機能**をメインにした仕組みを構築した。

2-1 相談機能

議会として公に相談を受け付ける仕組みにすることで、個人の SNS 等に相談するよりも安心して相談できる。また、双方向でコミュニケーションが取れることで、広報・広聴ともに高められる。

2-2 議会情報のオープン化、住民参加の推進

- ・ 活動状況の見える化により、文字情報だけでなくビジュアルによる可視化
- ・ 議員・議会という一見敷居の高いイメージを親しみやすく
- ・ 一般質問のイラスト化・ビジュアル化により、スマホでも見やすい表示に



そもそも、住民は政治そのものよりも地域課題の解決の方が参加しやすいことから、敷居を低くすることで議会や議員への興味関心、政治参加もしやすくなる傾向。

- 1 わかりやすく伝える
- 2 住民も参加しやすく
- 3 広報も充実させられる

2-3 議会全体のオンライン化支援

インターネット上での活動や SNS 等を普段活用していない議員、活用しきれていない議員にこそ、まちだんによるインターネット上での情報発信を進めてもらうことが重要。

個人では難しいことも、議会全体で取り組むことで、苦手意識を克服できる。また、議員個人の活動はあくまでも議員個人それぞれのものであり、議会全体で取り組むことによる公共性や責任の所在としての明確化が重要である。



2-4 新しい住民とつながる

インターネット上のチャット機能を使うことで、住民からの相談を 24 時間 365 日受付でき、個別での連絡機能で住民の方と密に交流できる。役所の開庁時間や市民の方の仕事や家事、育児などの都合や時間に影響されることなく、それぞれの市民の方の相談しやすい日時（過剰な遠慮が不要）に相談できるため、「議員に相談」という敷居を下げられる。家族や友人に知られることなく相談したい方にも、不安や負担を軽減できる。

2-5 議会報告会等の動画配信

パソコンやスマートフォンから報告会の生配信と録画を視聴できる。質問の受付や回答も可能で、これまで会場に来ることができなかった方々への発信や、意見の聞き取りが可能となる。対面での意見や相談が苦手な方でも、オンライン上であれば参加しやすい。また、時間の都合で質問を打ち切る必要もなく、録画動画を見てからチャット機能で議員への意見や相談をすることもできるため、時間の制約なく参加できる。



2-6 スケジュール

宮崎市議会の場合は、プロジェクトチームの実証実験を 6 ヶ月ほど実施後、導入。

四日市市議会の場合は、議会全体での実証実験を 4 か月ほど実施後、導入断念。

四日市市議会では協働の協定も結び、当初想定されていた期間内での相談件数などの目標値はクリアしていたのに、なぜ打ち切りとなったのか不明瞭。議会全体でのコンセンサスが取れてなかったのか、現段階になっても正式な評価指標などはいっていないため、本事業の四日市市議会における課題点は不明。

3 所 感

◆宮崎市議会の広報広聴活動の、ツールとしてデジタル世代に適した新しい広報の在り方が必要と、活動の見える化に着手。松阪市の「みてんか広報誌」のデジタル化である。

どこの議会も開かれた議会、市民と近い議会を目指し、また市政に関心がなく投票率の低下が進む中、非常に画期的な試みだと思う。人口40万人近い市で4か月間の参加状況が訪問ユーザー数 6,523 人、登録ユーザー数 430 人が多いかどうかは判断が付かない

が、デジタル化に加え紙媒体も今まで通り残す配慮もあり、明らかにプラスとなっていることは確実だと思える。翌日システムベンダーにも説明を受け一層の活用価値は伝わった。

松阪市としても直面している議会と市民の距離問題としては同じであり、もちろん十分な検証は必要だが、検討していく価値はあると考える。

市野幸男



◆市民とより近づく最先端の市議会 DX の活用を聴かせていただいた。「わかりやすい議員の人となり」「一般質問の内容の見える化」「市民の困りごとを直接相談が出来るツール」など、デジタルを活用した開かれた議会の広報広聴、市民と議会の距離を縮める実践を学んだ。

また街の談話室「まちだん」を提供している側から、私たちも日頃から思っている「投票率の低さ」「立候補者の減少」「その当事者意識の減少」をなんとかしたいと始まった仕組みを聴かせていただき、親しみやすい開かれた議会改革の実践となる DX 化に松阪市議会らしい1歩が踏み出せるのではないかと、未来に希望を持てる2日間となった。

東村佳子

◆2日間の視察を通し、「まちだん」の考え方は今とこれからの時代に生きる市民と、市議会の双方にとって良いものだと感じた。市議会議員は地域(町単位)代表、地域密着型という考え方が従来より薄くなってきているという点が挙げられる。地域の細かな相談が行いやすいという点は勿論あり、それも大切なことである。しかし、新興住宅地や賃貸などに住む核家族や単身世帯などは特に“地域の議員”との関わりは多くないように感じる。それよりも、同年代、似た境遇、いわゆるフィーリング。そういった所で相談しやすい議員と、地域の垣根を越えて交流している節が見受けられる。

また、業務上でチャットツールが当たり前に導入されている為、オンライン上でのコミュニケーションへのアレルギーも少なくなっている。導入事例が少ない故、どの自治体も二の足を踏む事にはなるだろうが、遅かれ早かれこういったツールが導入されることは間違いない。

森遥香

◆地方議会の議員の活動が見えない…という課題に対し、時代に対応された広報広聴機能の充実と DX 世代へ適した新しい広報の在り方を Gcom ホールディング㈱と飢肥社中が共同で開発した「まちだん」を活用し取組まれている。一般質問後の30分後感想動画や議員のプロフィールイラスト化、市民相談、議会と語る会の取組等、松阪市議会として是非ともアレンジしながらチャレンジしてみたいと感じた。

議会と住民との距離を DX を使って縮めること。松阪市議会も伴走型でサポート頂き、是非とも取組んでいきたいと感じた。予算等の課題も含め、各会派への説明や理解もして頂きながら、なるべく早いタイミングで取組が出来るよう汗をかいていきたい。

副委員長 松岡恒雄

◆プロモーションや広報機能、市民ニーズの把握や意見集約といった広聴機能の仕組みがやや遅れがちな地方行政であるが、まださらに地方議会の動きは遅いのではないかと思う。松阪市議会でも、本会議や委員会をインターネットで中継し、議員の名簿等の基礎情報、日程や会議録、議会報告会の概要などはホームページ上で公開、代表質問や一般質問、委員会質疑等の概要は市議会だより「みてんか」で報告を PDF で公開しているに過ぎない。ひととおりは全部やっている。が、松阪市のホームページ構成がまだまだ使いやすさとは言い難く、そのため市議会のページも見づらい状況が改善されないことは心苦しいところである。

総務省の調査によると、各世帯でインターネットを見るためにスマートフォンを利用する割合は90%を超えており、パソコンの 65%を大きく上回る。個人別に見ても、13 歳～69 歳では86%～96%、全体で 78.9%がスマートフォンを所持しており、70 代の方でも64.4%がスマホ利用なのである。もはや、インターネットはスマートフォンでの利用を基準に考えるべきであり、当然ながら民間企業はずいぶん前から構造を変えて対応をしている。そういった意味では、松阪市議会のデジタル環境はまだまだ十分ではなく、市民のニーズや社会情勢に応えられておらず、早急な改善が必要ではなかろうか。

宮崎市議会の「みやだん」は、全国マニフェスト大賞で高く評価されているように、スマホ対応をした先進事例である。チャット機能を用いた相談体制や、一般質問の録画動画への誘導、積極的な WEB 上の情報共有、アンケート機能を用いた意見聴取や政策立案の流れなど、これまで対面で行われてきた様々な取り組みを、そっくりそのままインターネットを介して実行しており、スマホを通して市民との距離感を縮めること成功している。事実、若干ではあるものの直近の選挙では投票率も上がり、既存のホームページの閲覧数も倍増するなど、議会への興味関心や政治への市民参画が高まっている確かな証拠だろう。

松阪市議会としても事務局に任せっきりにすることなく、広報公聴委員会を中心に全議員で協力しながら議会広報や議会改革に取り組んできていることから、宮崎市議会の取り組みは遠い雲の上のことではない。躊躇せずに1歩踏み出すことでスムーズな移行ができると確信をしている。費用対効果と取り組むべき事案を選別し、国のデジタル田園都市国家構想交付金の活用なども視野に入れながら、積極的な議会 DX に取り組んでいきたいと強く感じた2日間だったと思う。

委員長 沖 和哉